

サムエル記上、下 結晶の学び

標語

わたしたちがサムエル記上、下において見ることができるのは、ご自身の具体化と贖いを伴う三一の神が、サムエルとダビデを生み出して神の王国をもたらすことに、完全にかかわっていたということです。極めて重要な事は、三一の神が今日、わたしたちとかかわりを持っており、わたしたちの内活動して、ご自身のみこころを達成し、ご自身の定められた御旨を成就して、ご自身の心の願いを満足させようとしているということ、わたしたちが見ることです。

神の永遠のエコノミーの高嶺^{たかね}、すなわちキリストのからだの実際に到達することは、祈ることによる以外に道はありません。わたしたちがキリストのからだの実際としての勝利者となって、キリストの花嫁となることは、この時代、すなわち召会の時代を閉じ、栄光の王であるキリストの来臨をもたらして、彼が王国時代に彼の勝利者たちと共にこの地を取り、所有し、支配するようにします。

肉体と成ること、十字架、復活を通して、すでに神の御子であったキリストは、新しい方法で神の御子、すなわち神の長子となり、人性を持つ神の御子と明示されました。ローマ第1章3節から4節で、神の御子であるキリストは原型です。第8章29節で、多くの兄弟たちは原型から「大量生産」された人たちです。彼らは命の中で救われることによって、長子のかたちに同形化されます。

神のエコノミーとは、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちが霊的な消化と吸収という新陳代謝的な過程を経験し、それが造り変えを生み出すということです。この造り変えは、わたしたちの天然の命における、神聖な命による、漸進的で内在的な新陳代謝的な変化です。これはキリストのからだを建造して、新エルサレムを究極的に完成するためです。

サムエル記上、下の中心思想と、

サムエル記上、下において啓示されている神聖な三一

聖書：サムエル上 1:3, 7, 10-11, 19-24. 2:11, 35. 3:9-11, 21.
7:3-6. 8:4-22. 16:1-3, 13. サムエル下 23:1-3. 24:25

- I. サムエル記上、下の中心思想とは、神のエコノミーを成就することが、人の協力を必要とするということです——肉体と成ることの原則：
- A. 肉体と成ることの原則とは、神が人の中へと入り、ご自身を人とミングリングさせて、人をご自身と一にすることです。こういうわけで神は人の中にいて、人も神の中にいて、一つの命と一つの生活を持ちます——ヨハネ 15:4-5. ガラテヤ 2:20。
 - B. わたしたちは以下の事実に深く印象づけられる必要があります。すなわち、神のエコノミーを成就することは、わたしたちの協力を必要とするということです。神と協力するということは、神と共に縛られることを意味します——I コリント 6:17. ヨハネ 15:4-5. II コリント 6:1. I コリント 3:9. 16:10, 16。
 - C. サムエル記上、下における神との協力は、サムエルの母ハンナ、サムエル、ダビデの歴史によって、積極的な意味で例証されており、そしてエリとサウルの歴史によって、消極的な意味で例証されています。
 - D. 肉体と成ることの原則を通して神と協力することは、良き地に対する個人的な享受と関係があります。良き地は、すべてを含む、すべてに拡張するキリストを予表します——申 8:7-10：
 - 1. サムエル記上、下は、ヨシュア記、士師記、ルツ記の継続として、神の与えられた良き地の享受に関する詳細を与えています。
 - 2. サムエル記上、下の予表は、新約の信者たちがどのようにして、神が割り当てた彼らの分け前としてのキリストを享受することができ、また享受すべきであるかを見せています。それは神の王国、すなわち召会を確立するためです——コロサイ 1:12. マタイ 16:18-19. ローマ 14:17：
 - a. サムエル記上、下で、神と協力した者が享受した良き地は、神の王国となりました。
 - b. わたしたちは神と協力する中で、キリストを享受して、わたしたちのキリストに対する享受が神の王国となり、その中でキリストと共に命の中で王として支配する程度にまで至る必要があります——ローマ 5:17. 14:17。
- II. わたしたちは、サムエル記上、下において啓示されている神聖な三一を見

る必要があります：

- A. 神の選ばれた民に対する神の定められた御旨は、敵を打ち破って、完全に良き地を所有することだけではなく、神の選びの民がその地において王国を設立することでした：
1. 神は、ご自身の意図を成就して表現を持つために、王国、すなわち、ご自身が表現される領域を持つ必要があります——サムエル上 10:25. マタイ 6:10. ルカ 1:33。
 2. イスラエルの子たちはエジプトから連れ出されて、荒野を経過しました。彼らは荒野で神のために幕屋を建造しました。それから彼らは良き地に入り、そしてあらゆる部族はその地の分け前を割り当てられました。それは神が地上に王国を持つためでした——ヨシュア 13:1—22:34。
 3. サムエル記上、下は、王国をもたらすために極めて重要です——サムエル上 8:4-22. 10:25. 13:14. 15:28. 16:1-3, 13。
- B. 士師記のみじめな状況のゆえに、サムエルのような者を得るための緊急の切迫した必要がありました——サムエル上 2:35. 3:21：
1. サムエルは、ナジル人、祭司、預言者、士師でした。この四重の身分はサムエルを資格づけて、王をもたらし王国を設立することができる者とならせました。
 2. サムエルが祭司、預言者、士師となることは神の目標ではありませんでした。神の意図は、王のいる王国を設立することでした——サムエル上 8:7. 13:14。
- C. サムエル記上、下が啓示しているのは、王をもたらし王国を設立することが、神聖な三一がご自身の民とかかわりを持つことにかかっていたということです：
1. サムエルのような者が起こされて自分の委託を遂行するために、神聖な三一を必要としました——サムエル上 1:10-11, 20. 10:1, 6. 16:1-3。
 2. こういうわけで、サムエル記上、下には、神聖な三一についての詳細で細やかな啓示があります。サムエル記上、下に記録されている歴史の極めて重要な点は、神聖な三一が必要であったということです——サムエル下 22:1-3. 23:1-3. 24:25。
- D. 神聖な三一と主の主権ある御手が、サムエル記上第 1 章に啓示されています：
1. 墮落したイスラエルの大混乱のただ中で、エルカナとハンナは、神が彼

- の永遠の定められた御旨のために定めた命の道にとどまりました——サムエル上 1:1-5, 10-11, 20, 24。
2. エルカナは年ごとに、彼の家族と共に、当時シロにあった神の家、すなわち幕屋に行って、礼拝し、エホバにささげ物をささげていました——サムエル上 1:3, 21-24:
- サムエル記上第 1 章 3 節から 7 節、10 節から 11 節、20 節、24 節の犠牲が予表するのは、すべてのささげ物であるキリストです。雄牛、小麦粉、ぶどう酒が表徴するのは、わたしたちが経験して、神の家にもたらして神にささげるキリストです。
 - エホバは大いなる「わたしはある」です。エホバの家は、神の民の間で神の住まいとなる、神の具体化であるキリストです——サムエル上 1:10-11。
 - この区分がおもにわたしたちに示しているのは、神の家が三一の神の具体化であり、ささげ物がわたしたちが神の具体化の中へと入るための手段であるということであり、この手段が贖いです。ですから、わたしたちはこれらの節において、神の具体化と神の完全な贖いを見ます——参照、ヨハネ 1:14, 29, ルカ 1:68, 2:38, エペソ 1:7。
3. エホバがハンナの胎を閉じていたので、ハンナは強いられて、切迫した、献身の祈りをしました。ハンナは神によって、主権をもって、ひそかに動機づけられて、主に対して絶対的になる男の子を求めて祈りました——サムエル上 1:5, 10-12, 15。
- E. わたしたちがサムエル記上、下において見ることができるのは、ご自身の具体化と贖いを伴う三一の神が、サムエルとダビデを生み出して神の王国をもたらすことに、完全にかかわっていたということです:
- 神聖な三一は、ダビデが油塗られて王となったことにおいて啓示されています——サムエル上 16:1-3, 13:
 - わたしたちはこれらの節において、エホバである三一の神と、エホバの霊である三一の神の霊とを見ます——サムエル上 16:13。
 - 油は、神の霊を予表しています。犠牲としてささげられた雌の子牛は、ささげ物であるキリストを予表しています。こういうわけで、神聖な三一が、ダビデを油塗ってイスラエルの王とすることにかかわっていました——詩 89:20。
 - サムエル記下第 22 章 1 節から 3 節のエホバに対するダビデの歌の言葉は、エホバをダビデの^{いゆ}巖、とりで、解放者、岩、避け所、救いの^{つの}角として述

べています。ダビデは 47 節でこう宣言しています、「エホバは生きておられる。わが岩はほむべきかな。神、わが救いの岩はあがむべきかな」。

3. サムエル記下第 23 章 1 節から 3 節のダビデの最後の言葉において、エホバの霊はダビデを通して語り、イスラエルの岩が彼に語りました——サムエル下 23:2-3:

- a. これらの節の岩は、神がご自身の民に恵みを与える立場としてのキリストです。
- b. エホバの霊は、三一の神の霊です——サムエル上 10:6, 16:13。
- c. これらの節の「神」は、ヘブル語で「エロヒム」であって、三一の神を示しています。

4. サムエル記下第 24 章 25 節では、全焼のささげ物は、神の満足のためのキリストを予表しており、平安のささげ物は、神とご自身の民との間の平安のためのキリストを予表しています。

III. わたしたちの現在の状況と神の今日の必要は、原則においてサムエルの時代の状況と必要と同じです——サムエル上 8:4-22:

- A. ハンナが祈ったように、だれかが神の目標のために勝利の祈りをする緊急の必要があり、また資格づけられた者がサムエル(ナジル人、祭司、預言者、最後の士師)のようになる緊急の必要があります。サムエルは神によって用いられて、神の民の間の混乱した状況を終結させ、王と王国をもたらしました——サムエル上 2:35:

1. わたしたちは、今日の神の必要に応じる祈りをするために、三一の神の具体化である、またすべてのささげ物の実際であるキリストを必要とします。またわたしたちは集会の天幕の成就、すなわち、神の住まいである召会を必要とします——コロサイ 2:9-10, エペソ 2:21-22, ヘブル 8:1-2, 10:8-10。
2. ある意味で、わたしたちの王であるキリストがまだここにおられないので、わたしたちは士師たちの時代のように、なおも混乱した状況の中にいます——士 21:25。
3. 神の王国の成就是、王国の到来であり、この事は主イエスによってもたらされます。しかしサムエルのように、王国をもたらすことによって、神聖な三一と協力する者が必要です——マタイ 6:33, I コリント 6:17, 16:10, II コリント 6:1。
4. わたしたちが認識する必要があるのは、勝利の祈りをして王国をもたらすために、どれほど神聖な三一が必要であるかということです——マタ

サムエル記上、下
メッセージ 1 (続き)

イ 6:10, 13. 啓 1:4-7. 8:3-5。

- B. 三一の神は、彼の具体化と彼の贖いと彼の霊とをもって、ご自身の到来とご自身の王国のために、わたしたちを有用な人へと構成しつつあります——IIコリント 13:14。
- C. 極めて重要な事は、三一の神が今日、わたしたちとかかわりを持っており、わたしたちの中で活動して、ご自身のみこころを達成し、ご自身の定められた御旨を成就して、ご自身の心の願いを満足させようとしているということを、わたしたちが見ることです——ピリピ 2:13. ヘブル 13:21. エペソ 1:5, 9, 11. 5:17. コロサイ 1:9. ローマ 12:2. 啓 4:11:
1. もしわたしたちがこのビジョンを見るなら、この事は、クリスチャンであるとはどういう意味であるかについてのわたしたちの観念を大きく変えます——使徒 26:19. ローマ 12:7-8. IIコリント 5:14-15. エペソ 3:16-17。
 2. クリスチャン生活に関するわたしたちの天然的で、宗教的で、文化的で、道徳的で、倫理的な観念は、三一の神と完全にかかわりを持っているというビジョンに置き換えられる必要があります——マタイ 28:19. IIコリント 13:14. エペソ 4:4-6. 啓 1:4-7。